

最近のボーイスカウトの活動

夏休みを利用して一年間の総括である夏期キャンプを、今年も三泊四日恵那市笠置山で行った。

我々スカウトは、この日の為に事前の訓練（健康安全救急法、結索法、野外料理法）をした。大自然の神秘や風物を目のあたりにする事によって、自分自身の存在を内面的に考察する絶好の機会となり、良き社会人を作り出す動機づけをする事が出来る。また、自然の



中での生活は、まず食物を求めようとする作業のなかで、創造力、独立心を自発的に学びとらせてくれる。物質文明から離れて、自然の中での共同生活は、おたがいに忘れられない思い出として心に焼きつけられるであろう。

青少年の善行表彰

七月十三日(土)市民会館で、各務原市青少年育成推進大会が催されましたが、その席上、善行青少年として二団体五個人が表彰されました。鵜三小関係は次のとおりです。

・伊藤友美さん(鵜三小五年)

五月中旬、「飢餓に苦しむアフリカの子」の新聞記事から、「アフリカの子を何とかしてあげたい」と思い、学級の仲間と新聞記事を紹介、みんなの心を動かし募金活動の世話を中心になってされ募金を新聞社へ届けられました。

・早川和美さん(鵜三小六年)

五月二十五日、新一宮駅の階段で、急病の見知らぬおばあさんに声をかけ、ベンチと一緒にすわって介護されました。

この善行表彰事業は、引き続き今年度も行われます。青少年が地域社会の住民としての自覚と社会に貢献しようとする意欲を喚起することとは必要なことであり、とりわけ青少年の善意に根ざす各種の行為を助長し、その善行を広く一般市民に紹介するのが、このねらいです。各地区における善行者の発掘に努めよう。各地区代表の町内推進委員長が、特に推せん期間を定めず、いつでも受付けています。

老人会若さのある服装

今や日本は世界一の長寿国です。女性の平均寿命が八十歳を越えた今日、私達高齢者はもっともっと明るく若さのある服装でおしゃれを心掛けてみたらどうでしょうか。年令などにまどわされずに極端に言えば、赤い服など着こなすぐらいの勇気があってもよいのではないのでしょうか。服装が明るくなることはたしかに気分が若くなることに間違いありません。ひいては若返り法の近道です。人生の中で誰もが避けて通ることの出来ない「老い」から来る肉体的衰えはどうするか

とも出来ませんが、ちよつとの工夫で気分を若返らせることはできます。金をかける必要はありません。ちよつと工夫してみましょう。

編集後記

本年度の編集委員を紹介します。梅田 薫、後藤カズ子、新海照弘(編集長)、寺野勝美(新任)、吉岡より子(新任)、堀 昌幸、新任委員からひとこと

・本年から「ふれあい」の編集の仕事をするようになりました。地域のコミュニケーションはもとより自分自身のためにもこの一年がんばりたいと思います。

(寺野 勝美)

・「ふれあい」
美しい心のふれあいを
大切にしていきたい。

(吉岡より子)

この「ふれあい」は、皆様のふれあいの場です。自由に活用していただければ幸いです。

新、旧委員ともに一年がんばりたいと思っています。皆様のご協力をお願い致します。

昭和60年 9月15日発行
各務原市鵜沼宝積寺町6-39
各務原市社会福祉協議会
鵜沼第三連合支部
支部長 堀 昌幸

題字：各務原市長平野喜八郎氏

ふれあい



「ひとり暮らし老人をかこむ会」と同時に「つくし会」発会総会



木曾川貞照寺前川原の清掃をする宝積寺子ども会

福祉の輪を広げよう

各務原市社会福祉協議会
鵜沼第三連合支部長 堀 昌幸



暑さ、まだまだ厳しく、残暑お見舞い申し上げます。

各務原市社会福祉協議会鵜沼第三連合支部も発足以来四年目で、また、モデル支部の指定をうけて二年目になりました。諸先輩が築いたこの支部も成長期に入り、諸行事も皆さんの協力を得て、大変成功裏に実施されております。

先月の会員募集には大変たくさんの方々の会費の応募ありがとうございました。市内でも二番目に大きな支部で福祉活動に寄せる関心もまた大きな支部であると思っております。

八月二十五日に「ひとり暮らし老人をかこむ会」を開催いたしました。当日、日本テレビの「二十四時間テレビ 愛は地球を救う、アフリカの飢餓を救済しよう」を見て、この日本がめくまれ過ぎているということを強く感じました。

アグネス・チャンのエチオピア取材を見ると、あのエチオピアの子どもの細い手、足、顔に群がるハエさえはらえない病気の子どもも何回か見るアフリカの映像ですが、私は見ていて涙が止らなかったのです。同じこの地球に生れた人間じゃないか、どうしてそんなに細いの、どうしてあんな飢餓に苦しまなければならないの!! 私達が生きているのと同様にあの人も生きています。

私も戦後の食糧事情の悪い時代に子ども時代を過しましたが現在の日本は豊かすぎるほど豊かで食

物だけでなく何でも豊富にある中に生活しています。今我々にできることは一人一人が少しあの人達に食物をあげることができたならあの人達は生きられるのです。

私はあの映像を見て、どうしようもない、やりきれない気持ちになりました。

「自分が今生きていると同時に他の人も生きている」という気持ちが福祉の精神ではないかと思えます。ボランティア・サービスとは、こんな気持ちから湧き出た行為だと思えます。

前支部長の藤井さんは「すべて

わかちあう幸せ 「赤い羽根」共同募金

十月一日から十二月三十一日

共同募金とは

民間社会福祉事業のための資金募集

共同募金は、民間によって経営される社会福祉事業に必要な資金を集める募金です。

共同募金が、ほかのいろいろな

の人びとが、人間として、人間らしく、共に生きる」ということを言われました。私は「自分が今生きていると同様に他の人も生きている」ということを皆さんと一諸に考え、人を思いやる気持ちを大切に持ち続けたいと思います。

鵜沼支部がモデル支部の指定を契機に、本紙が発刊されましたがその号も本紙で第五号となりました。この「ふれあい」の紙面は目的を同じくする、あらゆる団体、ボランティア・グループのみなさんに活用していただきたいと考えています。

募金と異なる点は、民間社会福祉事業のための資金を一本化し、寄付金の募集、管理、配分の総合的な調整をはかっていくことにあります。集められた寄付金は、現在全国の一万八千におよぶ民間社会福祉施設や、団体を対象に広く配分されています。

社協鵜沼第三支部だより

寝たきり老人で自宅入浴できない人を社協のリフト付きバスで稲田園の特殊浴槽に移送し入浴の手伝いをする。(毎月第一週から三週までの金曜日)

・ひとり暮らし老人を囲む会
年三回ひとり暮らし老人を招待し、手料理でふれあいの輪づくりをする。

・配食サービス
ひとり暮らし老人で給食希望者に対し毎週火曜日夕食をお宅へ届けて懇談する。

・特別養護老人ホーム訪問
毎月訪問し、おしめ作りのお手伝いと十二月の大掃除に協力する。

・乳幼児学級講座の託児
お母さん達が安心して受講できるように、幼児・赤ちゃんの託児

・慈光園の交歓会
活動に必要な技術向上のための研修会

・会員の親睦会
。月一回の連絡会を持つ

かすみ会の会員は、各地区から入会され、年令層は三十歳代から七十歳代までの方々です。

経済的な余裕が出来たら、暇ができたらと考えていては活動にふみきること出来ません。暇は自

ら創り出していくところに、本当のボランティア活動の意義があると思います。

自主的に活動に参加し、活動を通して体験し、体験から学ぶことも多々あります。皆様のご参加をお待ち申し上げております。

スポーツ少年団

鵜沼第三スポーツ少年団は、九月一日(日)自然の家にて親子交流会を開催しました。昨年度までは、緑陽校下で親子運動会を行ってき



明るい社会づくり 推進協議会

雑草のように育ち根をはる、明るい社会づくり推進協議会では、地元への感謝と、全体の調和と連帯感、そして心の豊かな明るい地域社会を目指し、自発的な社会活動を進めております。

その内容は、神社仏閣・公園・墓地などの清掃奉仕、各施設の慰問、愛の募金活動などを行っています。

特に保健文化会館において、社会教育委員西田栄、薫田あや両先生による家庭教育講座を開かせ

て頂いております。私達は子供を何とかよい子にしたいと願って毎日生活していると思いますので、どうかこの講座にお出かけくださいますようお願い申し上げます。

婦人会のふれあい活動

婦人会では、前年同様七月に、ねたきり老人の友愛訪問を行い、ねまき作りをしました。

九月には、敬老の集いのお手伝いをします。今年のねたきり老人の方への友愛訪問は、枕カバーを作って訪問することになっています。

十月には、老人クラブの運動会に協力参加します。

二月には、慈光園を慰問します。また、福祉フェスティバルに協力し不用品チャリティーもします。



れた課題に対しては、話し合いでそのつど流動的に対処していきますが、昨年大きく拡げて頂きました食事ボランティアの方々に、今年は一人でも多くご参加頂きまして、その内容の把握とご理解を得て、一人一人からご意見、アイディアを頂戴し、実りある会にしていきたいと存じます。

折しも先日、日航ジャンボ機墜落事件がございまして、群馬県上野村のご婦人達がおにぎりづくりのボランティアをしたとのニュースがありました。

思いがけないこのような事件に地域社会が対応していけるパワーは貴重で、常日頃からお互の連帯感を養っていききたいと、つくづく感じさせられました。

そしてやがて訪れる、高齢化社会に備えた地域づくりに少しでも前進して、みなさまが心の通じ合う仲間とともに、可能な限りいきいきとした人生を、送って欲しいものだと思います。

「つくし会」発会総会

八月二十五日「ひとり暮らし老

人をかこむ会」の席をかりて「つくし会」の発会総会が行われました。「つくし会」とは、ひとり暮らし老人の親睦の会でこの鶴三支部には二十三名の方々がおられます。その方々がお互にはげまし合い、楽しい暮らしをするための会です。「つくし会」も昨年の準備の期間をへて、結成するまでには色々となりましたが、前年度支部長の藤井さんと、つくし会そして会長粕谷さんの努力でこの日を迎えることができました。会員皆様の今後の活動が期待されます。

子どもの遊び場点検

社協、青少年育成、そして子ども会の共催の子どもの遊び場点検は、七月三十一日（日）各地区毎に行いました。

それぞれの役員により公園、広場、道路などを回って細かく点検しました。

その結果は、市の土木課始め担当課へ各区分長から実態を説明し、要望しました。できるものから改善していただけるものと期待して

います。

夏休み

社会福祉映画のタベ

八月二十八日（水）夜七時から鶴沼第三小学校校庭で、四百人余の参加により、「Dr スランプ」と「ガキ大将行進曲」の二本立てで映画会が行われました。

きびしい残暑のほてりが残る校庭にも、夕やみがせまる頃には心よい夕風にさそわれ、三三五五集

いろいろなグループ

「かすみ会」の活動

時代と共にボランティアに対する期待も高まり、活動について考えてみる必要も出て参りました。

かすみ会としては、次のような考えで活動を進めていくことになりました。

。人間が相互に尊重しあい、「思いやりの心」を重視し豊かな人間性を作り上げていく。
。奉仕の経験を積み重ね、心の喜びとし生きがいとしていく。

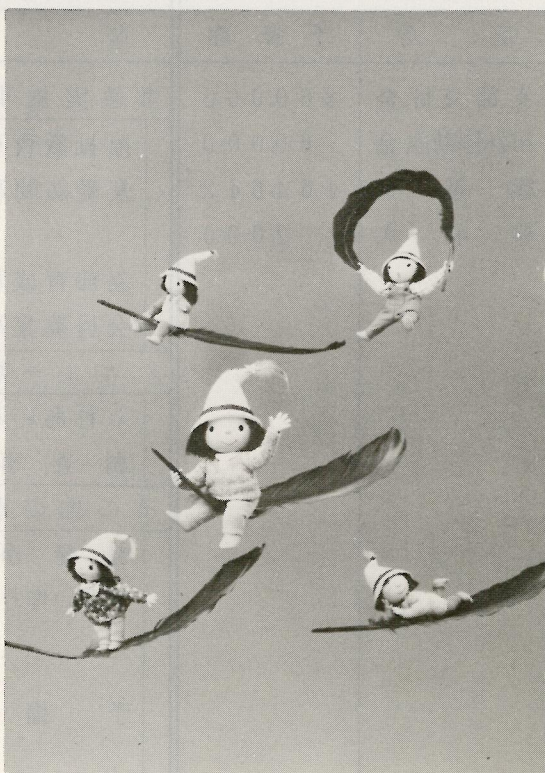
「かすみ会」の活動は、あくまでもボランティア活動は、あくまでもやってみる、やってみるという考え方をなくし、相手と共に活動し、共に育て合うものでなくてはならないことを確認し、私達は少しでも対象者の方々の代弁者といと考えています。

活動内容
。入浴サービス
。自分たちの地域社会を少しでも住みよいものにするための活動であること。

ボランティア活動は、あくまでもやってみる、やってみるという考え方をなくし、相手と共に活動し、共に育て合うものでなくてはならないことを確認し、私達は少しでも対象者の方々の代弁者といと考えています。

活動内容

。入浴サービス



昭和六十年全国統一共同募金ポスター
空飛ぶ人形ーかわいがってね!!

共同募金はいつから

募金期間は、厚生大臣の告示により、十月一日から十二月三十一日までの三か月と定められています。十月と十一月は、主として一般募金（民間社会福祉事業施設、団体等、社会福祉事業を営む者に配分するための募金）、十二月は主として歳末たすけあい（NHK歳末たすけあいも含まれます）募金を行います。しかし、この運動期間以外であっても、いろいろな寄付金を年間を通じていつでも取扱っています。

共同募金はどうに行われているか？

共同募金は、さまざまな寄付者に対し、いろいろな方法で行っています。

- ① 戸別募金
世帯を対象に、広報会を通じて行われる募金です。
- ② 街頭募金
街頭を通る人々に寄付を呼びかける方法です。
- ③ 法人募金
法人（企業）を対象に民生委員を通じて行われる募金です。
- ④ 職域募金
官公庁、企業、団体などの職場において、従業員を対象として行われる募金です。
- ⑤ 学校募金
小・中・高等学校の児童・生徒がおこづかい等をためて、主として生徒会などの組織を通して自主的に行う募金です。昭和五十四年度から「あきかん募金」を推進しています。
- ⑥ 興行募金
チャリティーショーや各種演芸会などの興行による募金です。

共同募金の使いみち

- ① 募金運動で集められた寄付金は主に、全国一万八千余りの民間社会福祉施設、社会福祉協議会などの団体に配分されます。
- ② 施設
（新、改築、設備の整備や運営に）
地域福祉のための各種事業費（主として社会福祉協議会に）
ひとり暮らし老人、在宅の心身障害児者、生活困窮者のための福祉活動や子供の遊び場づくり、子供会、老人クラブの育成など地域福祉のためには幅広い活動を進めるため
- ③ いろいろな団体（児童福祉関

係団体、障害者福祉関係団体、更生保護関係団体等）の事業費に
なお、共同募金への寄付金はこのほか歳末たすけあいとして、生活困難世帯などが明るいお正月を迎えるための費用として、また災害地の見舞いや、へき地の援護などにも使われます。



理 副 支 部 長
事 支 部 長
堀山 加藤 梅新 大江 江藤 井戸 藤池 南条 松岡 内田 梅田 新海 吉岡 寺野 後藤 武藤 山田 杉谷 曾田
昌幸 秀雄 繁定 次郎 勇讓 彦雄 稔子 代子 章賢 弘子 照里 勝美 かず子 ツネ子 美智代 寿美夫 典子 和明
評 議 員
加藤 保 大 天 岩 深 後 可 三 鈴 渡 岩 寺 大 德 南 皆 小 窪 朝 高 加 三 森 伊
ふみ江 富二男 絹代 靖子 高子 明子 哉一 美清 廣夫 夫茂 一平 成進 一樹 晴造 吉治
隆章 井藤 森 隆 治

60昭和
年度和鵜沼第三支部役員紹介

評 議 員
加藤 保 大 天 岩 深 後 可 三 鈴 渡 岩 寺 大 德 南 皆 小 窪 朝 高 加 三 森 伊
ふみ江 富二男 絹代 靖子 高子 明子 哉一 美清 廣夫 夫茂 一平 成進 一樹 晴造 吉治
隆章 井藤 森 隆 治

ふれあい広場

福祉懇談会を終わって

地域社会が支える福祉事業の一
つに、「ひとり暮らし老人をかも
む会」があります。
その会をよりよくしていくため
に、社協の役員とボランティア・
グループの各代表者、婦人民生委
員が集まり、七月三十日（新鵜沼
台コミュニティホールにおいて、
福祉懇談会が行われました。
テーマは、
「ひとり暮らし老人を囲む会」
の問題点と今後について
本年度第一回「ひとり暮らし
老人をかくむ会」の打合せに
ついてです。
二年間のあゆみの跡をかえりみ
ながら、今年二月に行われました
反省会資料をもとにして、今後、
実践活動をしていくには、どのよ
うな方法が可能か、みんなで考え、
意見の接点を求め合い、熱心な研
修がなされました。
また、テーマの八月二十五日
には、食事サービスとつくし会（
ひとり暮らし老人結成準備会で命
名）の結成総会の発会式も併せて
される予定などのお話もありまし
た。
その中での、唯一の朗報は、発
足当初から懸案になっていた、待
望の厨房設備が鵜沼東福祉センタ
ー敷地内にできるということです。
現在、設計の段階で、本年度第
二回の食事サービスには、利用で
きるように努力したいと、市社協
の浅野さんからのご報告がありま
した。
また、十一月二十三日に予定さ
れている総合福祉会館のオープン
後に、老人食の料理講習会を催し
て欲しいと、堀支部長さんの熱意
あるお願いもございまして、午後
七時から十時までの三時間が、ま
たたく間に過ぎ去りました。
やはり、このような事業は、福
祉のいろいろの要素を含めた土壌
づくりをしていかなければなりま
せん。
早急に解決しえない今後に残さ

昭和60年度 年間活動計画

60年	活 動 計 画	60年	活 動 計 画
4 月		10 月	市民運動会共催 子どもフェスティバル共催
5 月		11 月	「ふれあい」No.6 発刊 体振クロッケーゴルフ共催 福祉意識調査 福祉センター落成（市社協） 福祉大会（市社協）
6 月	60年度準備	12 月	支部理事会 ひとり暮らし老人を囲む会
7 月	支部理事会 支部総会 体振クロッケーゴルフ共催 子どもの遊び場点検 福祉こん談会	61 年 1 月	「ふれあい」No.7 発刊 ねたきり老人、重度身障者慰問 福祉講演（市社協）
8 月	会員募集 福祉映画会 ひとり暮らし老人を囲む会 つくし会結成総会	2 月	福祉座談会
9 月	「ふれあい」No.5 発刊 福祉フェスティバル（市社協） ねたきり老人、重度身障者慰問	3 月	ひとり暮らし老人を囲む会 支部理事会 支部総会 「ふれあい」No.8 発刊

昭和60年度 支部社協収支予算書

収入の部		支出の部		
区 分	予 算 額	区 分	予 算 額	事 業 説 明
支 部 交 付 金	3 8 0.0 0 0	共 通 実 施 事 業	1 6 5.0 0 0	
市社協助成金	6 0.0 0 0	福 祉 教 育 事 業	5.0 0 0	福祉こん談会
繰 越 金	1 6 4.6 4 2	友 愛 訪 問 事 業	1 2 0.0 0 0	ねたきり老人、重度身障者慰問
雑 収 入	2.0 0 0	支 部 育 成 事 業	4 0.0 0 0	ひとり暮らし老人を囲む会用具
		会 員 募 集 事 業	0	理事会総会
		メ ニ ュ ー 事 業	1 5 0.0 0 0	
		ふれあい事業	1 0 0.0 0 0	つくし会
		調 査 事 業	5 0.0 0 0	福祉意識調査
		そ の 他 の 事 業	2 9 1.6 4 2	
		啓 発 事 業	1 0 0.0 0 0	鵜三支部だより、標語募集
		生がい作り事業	1 0 0.0 0 0	市民運動会 50.000 子ども フェスティバル 30.000 クロッ ケーゴルフ 20.000
		予 備 費	9 1.6 4 2	
計	6 0 6.6 4 2	計	6 0 6.6 4 2	